

## 第2回 定例ワールドカフェ 感想 (2022.1.7 現在)

話題提供：思春期の子どもをもつ親のニーズと教師がしていること

提供者：原田孝さん

(一般社団法人 大阪総合教育支援研究所 O-T-E-S 代表 教師・スクールアドバイザー)

当日参加者：13名

感想 (Google Form) 回答者：6名 (分野\_教育2名、医療4名)

- ・今の教師は のところ、何度もうなづきました。この学校ではだめ、サポート学校が必要と思ってもお金の問題で繋がられない。なら、その子に何が出来るかなんですよね。未来に繋げてあげれる支援。がんばって見つけます。今日はありがとうございました😊
- ・思春期の子どもを教育するにあたり、その子が健やかに成長するために本当に大切なことは何なのか、親と一緒に考える手助けをする事が大切であることがわかりました。心が温まるお話をありがとうございました。
- ・子どものエネルギーチャージ理論がある事がわかったので、勉強してみたいと思いました。自分も含めて、子どもたちに関わる大人が、今の関りは彼らにとってのプラスかマイナスか考えていくことが必要だと思いました。大人でも難しい状況も多々あるので、わかっているもできない部分も、チームでサポートする視点も必要だと思いました。その視点を持って、すべての母子に関わりたいと思いました。
- ・ざっくばらんに話をしてくださり、とても聞きやすかったです。今までかしまった研修が多かったので新鮮でした。接続不良で最後の意見交換には参加できませんでしたが、次回はぜひ参加させていただきたいと思います。
- ・この度は教育の現場における、教育のあり方や考え方、新しい教育システムなど、とても関心あるお話が聞けました。今そこにいるその人にとって、必要なこと、出来ることを見つけていくというに、とても共感できました。貴重なご講義に感謝致します。ありがとうございました。
- ・教育現場の歴史や現状をよく知っておられる専門家のお話を聞いて、「やはりそうだったのか」と思うと同時に、「絡まった糸をどこからほぐせばいいのか」と考えさせられました。「文科省や管理職に忠実な教師」も「子どもに寄り添い、子ども目線の教師」も皆一生懸命です。「今の教育に疑問を持ちながらも続けている教師」も「今の教育を否定して行動をおこしている教師」もエネルギーを使いまくっています。1人だけ、教師だけではやはり糸はほぐれないと改めて思いました。子どもを救うには、学校、それも子どもが手を伸ばしたくなる教師を増やすことですね。医療、保健、福祉、地域でできる(教師の荷を肩代わりする)支援や、行政・社会に可視化し根拠を発信する研究の企画を皆さんと考えていきたいと思いました。